



◎北海道の道路改良計畫の建議
本會より内藏兩大臣に提出

北海道の拓殖計畫が本年度を以て終了するので十五年度から第二次計畫を樹立することゝ爲つて、道廳長官は之に關する豫算の要求書を内務大臣に提出したが、聞く所に依れば其の計畫中の道路事業も理想的のものと言ふことが出来ないのに、此上尙内藏兩省が査定する様なことがあつては到底拓地殖民の事業を進展せしむることが出来ないで、之が事業遂行の爲に豫算を是認せしむる必要があると言ふので、本會は理事會を開いて其の對策を攻究したことは前誌所報の通りであるが、八月二十五日左の建議を内藏兩大臣に提出した、若しその後の狀況に依つては兩大臣を

訪問して豫算通過に力むる筈である。(た)

建議

天賦ノ富源ヲ開拓シテ國力ヲ増進シ國民生活ノ進展ニ資スルハ蓋シ我國現下ノ狀勢ニ察シ喫緊ノ要務タルヲ信ス、聞ク北海道廳ハ現行拓殖計畫ノ將ニ來年度ヲ以テ終リヲ告ケムトスルニ先チ茲ニ第二次拓殖計畫ヲ樹立シテ拓地殖民ノ實ヲ擧ケムトスト寔ニ機宜ニ適シタルノ措置ト謂フヘシ

願フニ北海道ハ山野到ル處無限ノ資源ヲ包藏シ農業ニ鑛業ニ林産ニ之ヲ獲ルモ猶盡クル所ヲ知ラサルノ狀態ニ在リ

然ルニ開拓ノ現況ヲ觀ルニ農耕適地百四十五萬町步中既墾地ハ僅ニ八十五萬町步ニ過キス開拓萎靡トシテ不振ノ現狀ニ在ルニ深ク遺憾トセサルヲ得ス

之カ原因固ヨリ多々アルヘシト雖要スルニ開拓ノ先驅タルヘキ道路ノ設備不完全ナルニ基因スル所極メテ大ナリトス

北海道現在ノ道路ハ國道以下町村道ヲ合セテ一萬里ニ過キス之ヲ一平方里ニ付觀ルトキハ一里ニ二十四町チ出テスシテ内地府縣中道路ノ最モ妙キ室崎縣ニ於ケル二里三十二町ニ比スルモ尙遠ク及ハサルノ狀況ナルノミナラス其ノ構造亦幼稚ノ城ヲ脱スル能ハス

融雪時ニ在リテハ殆ト交通杜絶ノ状態ニ陥ルモノアルカ如キ其ノ
 拓殖事業ヲ滯滞セシメ本道ノ開發ヲ阻止スル寔ニ尠少ナラストス
 本會ハ曩ニ道内道路ノ視察ヲ遂ケ其ノ現状ヲ觀テ益々前記ノ感
 ナ深クスルモノアリ固ヨリ道廳ノ企畫ニ係ル新計畫ヲ以テスルモ
 未ダ十全ナリト謂フ能ハスト雖財政緊縮ノ今日其ノ多キヲ望ムコ
 トノ頗ル至難ナルモノアリト認ムルヲ以テ今暫ク之カ計畫ニ從ヒ
 拓殖事業ノ促進ヲ圖ルノ極メテ必要ナルヲ認ム
 冀クハ右計畫ヲ採擇シテ我國運ノ進展ヲ圖ラレムコトヲ茲ニ本
 會理事會ノ議決ヲ經建議候也

大正十四年八月十二日

道路改良會長 水野鍊太郎

◎六大都市道路主務者招待會

八月二十五日より三日間内務省會議室に於て開催せられ
 た東京、京都、大阪、神戸、横濱、名古屋の各都市道路協
 議會を機とし、本會は是に出席せられた都市の道路主務者
 並關係府縣土木主任官を八月廿七日午後五時より丸の内永
 樂俱樂部に招待した。

當日は雨上りの後を受けて、胸ぐるしいまでの蒸し暑さ
 であつたが正木東京、村山大阪、田邊兵庫、田中愛知の各
 府縣土木課長を初め、近東京市道路局技術長、會山東京市
 電氣局技術長、永田京都市技師長、坂出、岩田、清水の大
 阪市各部長、藤宮横濱市土木局長其の他の諸氏が出席され
 た。本會よりは水野會長が新潟地方へ旅行中のところ折よ
 く當日歸京直ちに參會せられたるを初めとし、中川、八田、
 堀切其の他各理事幹事が多數參會した。

席上水野會長は立つて、來臨を得た光榮を謝し、街路事
 業の促進に關し日夜研鑽努力せられつゝある諸君に對し感
 謝の意を表すると俱に、本會が卒先東京市の街路改良に關
 し建議して以來著々其の効果を擧げ、其の他の都市亦面目
 を一新しつゝあるは、衷心より欣快に堪えざるところであ
 つて、復た國運の隆昌上慶賀に堪えない次第である。何卒
 益々御自愛の上一層の御奮勵を祈る旨の挨拶があつた。

これに對し伴東京府技師は一同を代表し、道路改良會の
 權威と功績とに對し鄭重なる謝辭と共に、猥りに整理緊縮

の風評に會ひて、動もすれば遲滯せむとする本邦道路改良事業に對し頂門の一針として益々道路改良會が進展せられむことを祈る旨の希望と謝辭を述べ酷熱も忘れて主客歡を盡した。

それから別室に於て榊井神奈川縣技師が自ら撮影した箱根坂路開通式の狀況其の他の活動寫眞あり、諧謔を交へたる同技師の寫眞説明と共に箱根嶮路の今昔を如實に展開せしむる等益々道路改良の急務を痛感せしめて、歡談數刻盛況裡に解散した。(小兵衛)

◎藤澤橋と國道工事の竣功

時は八月二十日國道一號路線神奈川縣高座郡藤澤町地内第一期工事の竣功と、それに新設された、藤澤橋の開橋式が盛大に舉行された、此日内務省よりは岩澤技師其他關係當局者が多數に出席される筈であつたが折り悪しく岩澤技師は災害復舊工事視察として出張中で前夜は常町に一泊された相だが、公務の都合上參列の機會を失つた事は遺憾の

次第であつた、縣からは清野知事、市村内務部長高田土木課長など出席の見込であつたが、これ亦折り悪しく内務部長が突然の榮轉となり且つ當日は知事と土木課長とは、攝政殿下の御機嫌奉伺として葉山に伺候されたので、知事代理として安藤地方課長、土木課長代理として藤森道路主事が參列し、其他多數の縣官、池上縣會議長、高座郡長等を始め、在町各官衙主任者などが參列された、縣の道路改良事務所では地元の関係上網谷所長以下所員一同が式場の準備に應接する。

何がさて縣下に於ける國道工事として京濱國道の次に竣功を告げたもので本計畫に於ける竣功の魁と云ふので町民は全く熱狂的の觀喜を以て祝意を表する、見渡せば全町至るところ國旗と祝燈に飾られ煙火は朝來間斷なく打ち掲げられて盛んに氣勢を添へて居る、奉祝の緣門は遊行寺の裏門と白幡横町の入口とに設けられ、別して藤澤橋の橋畔には美しき大アーチを設け、橋上には大天幕を張つて式場とし、橋上北隅の人道には修葺の祭壇を設けて開式を待つ、

かくて此の盛儀を見んとする群衆は折から残暑の炎塵を物ともせず橋の前後に聳々と蝟集し九時半の新國道も立錫の餘地なく詰めかける。

去る程に午前十時の豫定は十一時に繰り下げられて一同式場に案内される、先づ來賓としては知事代理、池上議長以下縣官其他の官公吏、金子町長以下道路委員、町會議員及關係有志者等順次列席の上、嶋沼太神宮社掌關根氏齊主となり、白幡神社々掌、諏訪神社々掌と共に修葺の義が始められる、神々しき衣冠束帶の神官は交るゝ莊重なる神文を奏し、清々しき眞榭の碁ひを執り行へば、參列の官民は順次玉串の奉典を爲す、次に網谷所長は精細なる工程報告を朗讀すれば一同熱心に耳を傾ける、町長の挨拶の後來賓の祝詞となれば、知事の祝詞（安藤地方課長代讀）都筑道路改良會幹事の祝演、池上議長の祝詞、町會議員代表大西氏の祝詞、道路委員白井氏の讚詞等あつて目出度式を終はる。

新らしき道と橋とのあらん限り此町の榮は幾千代かけて

神々の守らせ給ふ心地して式を終れば、それより直に祭壇、式場を撤して渡り初めとなる、本来なれば吉例の三夫婦と云ふ處なれど其處は新時代に順應して習慣を破り町立三小學校の五年生以上約二千名を渡らせると云ふ文化的新吉例を開く、順序としては神官の先導、町長の案内にて官民有志者の渡橋となり續いて二千の學童が旗行列の後に町民有志者が付き従ひ其次に當日祭禮の神輿三臺、消防手の金棒連、餘興の手古舞連數十名が木遣り音頭で勇ましく渡り終れば一般の群衆は雪崩を打つて其の後に續く、兎に角全幅九間半、車道六間、人道各一間半宛の鐵筋混凝土橋で道路と同一幅員の橋であるから、さしもの群衆を何んの苦もなく吞吐する心地よさ、忽ちにして群る人波をもれなく渡らしめる、一方上流十數間の處には舊橋大鋸橋が横る、此新舊二橋を對照しては何人も今昔の感なきを得ぬであらう、町民の顔には何れも歡喜と光榮とが溢れて居る、さらば新らしき藤澤橋よ永へに町民の榮を護れ、新らしき國道よ永へに交通の上に幸あらしめよ。

式後案内さる、まゝに停車場前の旗亭稻毛屋に於ける盛大なる祝宴に列する、來會者は官民有志無慮百餘名と註せられ、さしもに廣き稻毛屋の樓上は全部開放され、正面床の間を背景として丁字形に配膳される、兎に角開宴前の小閑を利して一風呂浴びる、炎塵悉く洗ひ流して清々しき浴衣に打ち寛ろける心地よさ、やがて着席、道路委員代表として和田町會議員が開會の辭に盃は舉げられる、酒三行にして、都築幹事は來賓代表の答詞を演べ、それより町長始め有志者の熱誠なる歡待に手古舞連のお酌で興を添へる。

思ふに藤澤町は中部相模に於ける物資の集散地として將た又湘南方面に於ける遊覽地の交通的要衝として重要なる地位を占めて居るので何れの點にも烈々たる發展の機運が藏されて居る、論より證據今回竣功せる國道沿線の建築に表はれた美觀はそれを裏書するものである、別して全國町村長會長たる金子町長の指導の下に大藤澤建設の計畫を熱望せる町有志の元氣は大したものである。吾等は深く當日の歡待を謝すると共に心から同町の發展を祈るのである。

かくて主客十二分の歡をつくし、心を寧めたる記念品を頒ち午後四時萬歲聲裡に芽出度散會した。

(神奈川縣報告主任)

◎二子橋竣功式

多摩川河原に橋がかつた、何の不思議もない、これまで架つてゐないのが不思議な位だ、しかし随分前から計畫はあつたさうだ、即ち名にしあふ多摩川砂利のとれるところで、亂流で川幅も相當に廣いところの二子の渡しのところに。

府縣道東京厚木線といふよりは東京市と神奈川縣とを連絡するものと言つた方が良く、兩府縣を連絡するものに一號國道六郷橋があつたきり大抵は渡しであつたからその不便は甚しかつたに相違ない。曩に此の六郷橋改築工事成つて開通式はこの間行つたばかりに、又副路として效果の多い本線のこの橋も開通されることになつたので其の便利になつた事は想像の外であらう。架橋工事着手が大正十三年

十月本年七月竣功といふから、一寸一年ばかりかゝつたわけである、全工事費が約四十五萬圓延長二百四十二間幅員五間半、鐵筋の構造で見ると頑丈さうな橋である、橋面には電車の軌道さへ敷かれてある。多摩川電車が延びる計畫ださうであるから一層便利になるばかりである。

開通式は八月七日といふ暑い日盛にかんく反射する橋上で行はれた、式後山車なども出て渡橋をやるなど此の地方としてはなかく盛んであつた。

左に知事式辭其の他各方面から寄せた此の欣快事に對する祝辭を掲げて喜びを頌ち度い。(大江生)

式 辭

府縣道東京厚木線ニ架セルニ子橋功成リ本日ヲトシテ開通ノ式典ヲ舉行スルニ當リ朝野諸賢ノ貴臨ヲ得タルハ洵ニ光榮トシ又以テ欣快トスル所ナリ抑モ本線ハ軍事上ハ勿論東京市ヨリ神奈川縣下厚木平塚兩町方面ニ至ル交通ノ要衢ニ當リ來往常ニ頻繁ヲ極ム然ルニ府縣界ヲ流ルル多摩川横斷ノ箇所ハ古來纒ニ渡船ノ便ヲ藉リ辛ウシテ其ノ連絡ヲ維持シ運輸ニ資スルニ過キス而モ本川ノ急

流タル一朝豪雨ニ際會セムカ濁水忽チ漲溢シ爲ニ旬日ニ亘リテ交通ヲ遮斷シ其ノ不利不便正ニ忍フヘカラサルモノアルノミナラス近時都鄙ヲ通シ勃興ノ氣運ヲ醸成セル産業ノ發展ニ伴ヒ其ノ施設亦到底舊態ニ甘スヘカラス兩府縣茲ニ鑑ミル所アリ曩ニ樹立セラレタル政府ノ道路改良政策ニ順應シ茲ニ橋梁架設ノ議ヲ決シ昨夏エテ起シ財ヲ投スル五十有餘萬圓月ヲ閱スル十有數月今ヤ其ノ竣成ニ遭フ工事擔當者ハ素ヨリ關係有志諸士不斷ノ援助ト内務當局ノ深甚ナル指導トニ俟テルモノ蓋シ尠シナラス

惟フニ交通機關ノ整備改善ハ人文ノ啓發ヲ促シ國ノ増進ニ寄與スルニ出ツ是レ兩府縣民ノ巨費ヲ投シテ吝マス其ノ經營ニ當リ以テ今日ノ成功ヲ期圖セシ所以ナリ

希クハ本橋ノ利用ヲ充實シ益々殖産興業ノ實ヲ擧ケ以テ邦家ノ隆昌ニ資セラレムコトヲ一言ヲ叙シテ式辭トス

大正十四年八月七日

東京府知事 宇佐美勝夫
神奈川縣知事 清野長太郎

祝 辭

府縣道東京厚木線ハ一號國道ノ補助線トシ將々東京市ノ放射道

路トシテ重要ナル使命ヲ有ス然ルニ之ヲ横斷スル多摩川ニハ從來
橋梁ノ設備ナク纔ニ渡船ニ依リテ連絡ヲ圖ルニ止マリ交通上ノ不
便少カラサリキ曩ニ政府力道路ノ改良ヲ助成スルノ途ヲ講スルヤ
東京神奈川ノ兩府縣ハ相謀リテ架橋ノ計ヲ定メ拮据經營其ノ功ヲ
進メ茲ニ堅牢宏壯ナル新橋ノ架設ヲ見ル願フニ本橋ノ成ル之ニ依
リテ其ノ地方ノ發展ヲ促進シ帝都ノ復興ニ資補スル所極メテ大ナ
ルモノアルヘキヲ疑ハス冀クハ今後相率キテ之カ維持管理ニ力ナ
致シ以テ長ヘニ其ノ利用ヲ完フセラレムコトヲ竣功式ニ當リ一言
ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十四年八月七日

内務大臣 若槻福次郎

祝 辭

府縣道東京厚木線中二子橋架設功ヲ竣ヘ本日茲ニ落成ノ式典ヲ
舉ラル念フニ本橋ノ竣成ニ依テ多摩川渡船ノ煩ヲ除去シ以テ交通
上著シク利便ヲ増進シ地方ノ發展産業ノ振興ニ資補スル所極メテ
大ナルヘシ

願レハ本會創設以來一意道路改良ノ必要ヲ唱道シ或ハ政府ニ建
議シ或ハ地方當局ニ勸説スル等大ニ努ムル所アリ今ヤ改良ノ氣運

到ル處ニ横溢スルヲ見志望ノ空シカラサルヲ思ヒ欣快ノ情禁スル
能ハサルモノアリ

茲ニ本日ノ盛儀ニ際シ衷心ノ祝意ヲ表シ併セテ今後益々維持管
理ニ努メ以テ長ニ其ノ効果ヲ完フセラレムコトヲ望ム

大正十四年八月七日

道路改良會

會長 水野鍊太郎

祝 辭

二子橋架設功ヲ竣リ茲ニ開通ノ式ヲ舉ケラル

多摩川ノ長流ハ一部東京市ト神奈川縣トノ境ヲ劃シテ相通スル
東京厚木線則チ第一號府縣道ハ從來彼ノ舁載ノ備ニヨリ交通頗ル
不利ヲ極メツツアリシモノ今ヤ之レニ新橋ヲ架スルニ及ヒ實ニ隔
世ノ感ナキヲ得ス爾今人馬絡繹影ヲ橋上ニ絶タス而シテ運輸來往
最モ生産ノ隆興ヲ助長シ沿道發展ノ上ニ資スルモノ果シテ如何ソ
ヤ之レ兩府縣産業經濟ノ伸張ヲ期スヘキニ止マラス國家ノ富力亦
以テ加ハルモノナクンハアラサルナリ

眞ニ昌代ノ嘉績トシ興國ノ啓運ヲ捉導セルモノト謂フヘキナリ
欣快ノ餘リ一言以テ祝辭ニ代フ

道路の改良 第七卷 第九號

大正十四年八月七日

東京府會議長 中野勇治郎

祝 辭

府縣道厚木東京線二子橋ノ架橋工事竣工ヲ告ケ茲ニ開通ノ式ヲ舉ケラルルハ邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

抑モ本道路ハ本縣ト東京府トヲ連結スル重要路線ニシテ而モ國道一號線ト並ヒ軍事上及産業上必要缺クヘカラサル幹線道路ナルニ洵ラス從來多摩川ノ架橋ヲ缺キ之カ爲本道路ノ效用ヲ妨ケラレ附近文化ノ進展ヲ阻害セラルルヤ久シ故ヲ以テ當二子橋ノ架設ハ關係兩府縣民ノ最モ熱望シテ止マサリシトコロナリト雖今ヤ前後八ヶ年ニ亘リ總工費金五拾貳萬餘圓ヲ費シ延長二百有餘間ニ達スル宏壯ナル鐵筋コンクリート橋梁ノ完成ヲ見ルニ至リ茲ニ多年ノ懸案全ク解決シ將來永遠ニ交通ノ安全ヲ確保セラル本橋梁ノ架設ハ以テ直接兩府縣ノ交通産業ノ發達ヲ促進シ文化ノ向上ニ資スルハ勿論我カ國運ノ發展ニ貢獻スル所亦大ナルモノアルヲ疑ハス本日ノ盛儀ニ臨ミ欣快禁スル能ハス一言ヲ陳ヘテ祝辭ト爲ス

大正十四年八月七日

神奈川縣會議長 池上幸操

祝 辭

110

惟フニ帝都ノ西郊ヲ流ルル多摩ノ河流ニシテ橋梁ヲ架スルモノ獨リ東海道六郷橋アルノミ是ヨリ上流數里ノ間殆ント此設備アルヲ見ス幕政時代ハ知ラス維新以後數十年間猶ホ此ノ重要事ヲ顧ミサリシハ深ク遺憾トスル所ナリ

今ヤ當局ノ英斷ト府縣ノ協力ニ依リ茲ニ宏壯ナル二子鐵橋ヲ架設サレ交通運搬ノ利便ヲ達スル事ヲ得ルハ社會ノ爲メ寔ニ欣速トスル所ナリ橋上遙ニ望メハ芙蓉ノ秀峰ハ西天ニ聳ヘ秩父ノ連山亦一望ノ裡ニ映ス壯快何ソ之ニ過キン且ツ玉川ノ沿岸眺望佳絕ニシテ名勝頗ル多シ是ヨリ後都人士ノ衛生慰安ノ樂土タルヤチ疑ハス從テ郊外住宅地トシテノ發展ハ幾十倍スルモノアラン而已我社亦橋上電車ヲ敷設スルノ特典ヲ得二子ヲ經テ溝ノ口ニ延長シ地方ノ開發ニ任セントス慶賀ノ情ニ堪ヘス謹シテ茲ニ架橋ノ竣成ヲ祝スト再云フ

大正十四年八月七日

玉川電氣鐵道株式會社

事務取締役 津田興二

二子橋創架開通式祝詞

維時大正十四年八月七日卜吉恭茲舉二子橋創架開通之式惟於大

正八年起企爾來七閱年而成厥材孔良厥工孔堅厥費大約七十萬金斲

艇長橋臥波以跨府縣之界蓋此地自往昔爲野航處名曰二子渡運輸交

通之不便不可言是以於沿岸町村之產業也自缺賈遷之便雖以村民之

勤勉每有不得償其勞之憾矣今乃得架橋焉於其人文與產業之勃興何

如也若夫溶溶玉川如白練紆餘委委榮砂邊石停爲深潭流爲激湍釣於

水則香魚鮮可食採於野則菜蔬美可茹而況宜干花宜於月取涼及情流

眺雪於岡巒四時之景不同而與趣无涯者乃此地也若更他日設爲一大

游園地則爲此橋者豈不翅爲六村產業之媒亦將爲都人游息之媒一橋

而 有二効則此橋之名可謂不空也乎臨終謹謝浴干高名諸賢侵暑涉

遠而來會之光榮云フ

大正十四年八月七日

(聯合)

謹白

六ヶ町村代表玉川村長 豊田 正治

二子架橋を歡びて

皇國ニ其名モ高キ玉川ノ

橋ノ通路出來シ御代カナ

報

壽道濟

八十二叟

影サユル月サヘ橋ノ渡リ初メ

今日ノ定ル日ヲ祝フ人々

壽道濟

八十二叟

調布ヤ橋路ノ通ヒ開ラケム

世渡ル人ノ數限リ無

房壽

八十二叟

天サカル鄙ノハテマテ開ケケン

二子ニカカル玉川ノ橋

房壽

八十二叟